県退教協だより NO・95

長崎県退職教職員等連絡協議会
長崎市筑後町二―一　教育文化会館内
☎〇九五―八二二―五一九五

今を思う

会長　上川剛史

今年の年賀状に「今年こそは良い年に」と書いたのですが、一月一日に発生した能登半島地震により頭から願いが打ち砕かれました。地震災害は悲しく改めて実感させられました。

日本に生きている人間にとって、自然災害は決して他人ごとではなく、被害が大きければ、42年前に発生した長崎大水害のように、復旧作業の動員や組合員の被害家屋の復旧作業にも、先輩教職員の方々のご冥福をお祈りし、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

ロシアのウクライナ侵攻が始まって、昨年10月から始まったハマスとイスラエルの戦闘は、ハマスへの攻撃が引き金となり、長年国連決議違反とされてきたパレスチナ自治区へのイスラエルの攻撃を開始しました。戦況は膠着状態で解決の糸口さえ見られません。

昨年10月から始まったハマスとイスラエルの戦闘は、ハマスへの攻撃が引き金となり、長年国連決議違反とされてきたパレスチナ自治区へのイスラエルの攻撃を開始しました。戦況は膠着状態で解決の糸口さえ見られません。

これは、「戦争」の体験からしてないあります。

これは、「戦争」の体験からしてないあります。

一方的な「虐殺」の体験からしてないあります。

これは、「戦争」の体験からしてないあります。

これは、「戦争」の体験からしてないあります。

これは、「戦争

が築いた退教協の活動を維持発展させるためにも、退女教との統一を含めタブーを排除した議論をすべき時期に来ていると思います。会員の皆様はどう思われるでしょうか。

報告

五者合同学習会 組織活動交流集会

副会長　本多稔

第29回五者合同学習会が「安心して心豊かに暮らせる社会をめざして」をメインテーマに、昨年10月12日東京のライポール日教済において開催されました。開会挨拶、主催者挨拶の後の基調報告は、①子ども家庭庁の発足、②人事院勧告、③学校の働き方改革、④学校の働き方改革に関する「7つの提言」、⑤子どもたちのゆたかな学びの保障の5項目でした。講演Ⅰでは「関東大震災朝鮮人虐殺はいつどこで起こったのか」の題目で、講師は田中正敬さん（専修大学教授）。その内容骨子は、関東大震災が起こった後、朝鮮人や社会主義者が暴動を起こすという流言は政府が拡げ、関東全体が「動乱」を呈した。警察官憲が大げさな「宣伝」を行ったから。朝鮮人犠牲者の身元がわからないよう始末するあとの方針も「処置」されつつあるいの斎藤関係文書の所在書かれている政府は国会図書館に所蔵されているのに政府は関わらず確認できないとも対応を取っているというもの。

でした。講演Ⅱでは、「東アジアでの戦争をいかに回避するか～軍備拡大でなく、沖縄を平和のハブに！～」という題目で講師は羽場久美子さん（青山学院大学名誉教授）でした。演目題に対して、主にデータ提示（世界の人口、経済、コロナ感染症、アメリカの世界戦略など）によりいかに平和と繁栄を作るかの日本からの提言を行っている。近隣諸国との友好が不可欠であるのに、現状は沖縄諸島にミサイル配備を開始し、日本列島南部、南西諸島と沖縄石垣島に地下指令塔を建設しているという問題提起を行い、そうではなく、沖縄を平和のハブにし、東アジアで戦争をさせないようにしなければならないというまとめをされました。

第29回日退教組織活動交流集会は翌日の13日同じ会場で開催されました。全体会ではまず、主催者挨拶、来賓挨拶があり、その後「組織現況調査」報告と基調が平岡良久日退教事務局長よりなされました。午後より2つの分科会に分かれました。第2分科会では、7本のリポートの発表・討議がなされました。①「はだしのゲン」削除問題から考える（広島県）、②反戦・平和を訴える平和劇（朗読劇）を子どもたちに（大分県）、③「安倍晋三元首相国葬閣議決定取り消し並びに予算執行差止め違憲確認及び損害賠償請求事件」横浜訴訟について（神奈川高）、④2022年度都高退の活動（東京高）、⑤高退教活動って何？（熊本高）、⑥千葉県退教の現状と取り組んできたこと（千葉県）、⑦400号間近！会報発行のとりくみ（福島）。

第32回合同学習会

県退女教事務局長　柴田輝美

昨年10月19日、「平和のために、いま私たちができること」をテーマに佐世保市で開催し、県下より44名の参加がありました。

はじめに、先の大戦当時、中国や朝鮮に住んでいて、終戦後日本へ引き揚げてこられた渡邉かをるさん（都合により紙面での参加）と津田典子さんによる体験談でした。

津田さんは、「当時9歳で大連に住んでおり、終戦日は雲一つない青空が広がっていたことを覚えている。玉音放送は何を言っているかわからなかった。戦争が終わったからといってすぐに日本へ帰ることはできず、終戦の2年後にやっと佐世保の浦頭行きの引揚げ船に乗ることができた。その2年間の生活の状況はとても厳しいもので、日本に帰ってきてからは父が亡くなり、いじめ、母子家庭への差別と様々な苦難の連続だった」と語られました。津田さんは、この学習会のために戦争に関する本や資料を再度じっくり読み込まれ、その語り口には熱いものがあり、参加者は話に引き込まれました。そして、今の平和を守っていかなければという強い気持ちになりました。

次に、グループ討議に移り、活発

な意見交換が行われました。どのグループでも共通していたのは「この話を現役の教員や若者に聞かせたい」ということでした。

〈参加者の感想〉

10年ほど前になるかと思いますが、テレビでマスコミの方が長崎の街を歩いていた女子高生に「あなたにとって平和とは？」と質問されていました。その女子高生は「平和とは反省することだと思います」と答えました。私もその通りだと思いました。（70代男性）

母も中国からの引き揚げ者で、中国での裕福な生活を時々話してくれた。「懐かしい中国に行ってみようか」という私の誘いに断固として「ノー」でした。今日のお話を伺って母の心の裏にある出来事（気持ち）を想像させられました。（60代女性）

お知らせ

2月5日に、次回について県退女教との事前打ち合わせをしました。第33回は、11月6日（水）、大村市の中地区公民館で開催することを決定しました。詳しい案内は9月下旬に届けます

ヨカ活動

岩瀬浦小学校の奉安殿あとを踏査

五島　平田昌一

小学校「戦後10年経った頃聞いたことのある話で、岩瀬浦小学校の裏山に奉安殿があったということを思い出した。同校出身の舛田さんを誘って踏査することになった。既に廃校となって6年の校舎周辺は荒廃の一途をたどっていたが、校舎裏の中ほどまで進むと、さえぎるものがほとんどない状態の石段があった。そこを50段登って目的地に着いた。そこは幅10m、奥行き約8mの長方形の広場を3mほどの高さの整然と記憶通りに山肌を削ってお、この石垣で囲まれていた。その整然とした石段の左右に同じもの を3つ並べて見つけることができたのは、奉安殿を囲うためにわざわざ、石段の左右に同じもの を3つ並べて見つけることができたのは、奉安殿を囲うために使われていたのは、他の穴が何かでつだけなのだろうか。また、周辺の地推測。

壊去・撤去する際に、戦後何らかの指令破壊・撤去する際に、戦後何らかの指令破壊・撤去する際に、戦後何らかの指令破壊

退女教の活動紹介

長崎地区会長　水本勝子

○会員115名、61歳～97歳（90歳代は21名、80歳代は65名）の超高齢者団体ですが、暦年齢や身体の少々の故障も顧みず、ポジティブにの活動をいしまも続けて、今退女教の灯りを探し続けながらの悩み多き日々です。

○活動の柱と戒めの中にかしを再び戦場にかして、高揚を心豊かに送らる生ンを掲げ、先輩たちの年時代を生きた人のたちの後輩たちの教え子たちの

○今年度、市退女教連帯の支持議員団体と市退女教の組織（県教組）・生き方・願いを共に職場・生活・願いを職場・生活・願いを共に職場・生活・願いを共に職場・生活・願いを共に